



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No.63

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-8-6
東京スポーツ会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

(2012/8~2013/7のスローガン)

次代に向けた プラス考動を



新年ごあいさつ

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重森 仁

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。2013 初春、如何お過ごしでしょうか。

旧年中は関係各位より弊組合に温かいご指導、心強いご支援を賜り、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。数え切れない多くの皆様より、ご指導、ご協力をいただいたことに感謝しつつ、そのお気持ちに応え得る新年のスタートにしたいと思えます。

昨年10月の北海道総会で、もう一期、理事長をせよとの命を受け、責任の重さを痛感しています。10月28日宮城県石巻市での復興ウォーキング大会を始め、11月のJSERA九州ブロック(大分市)大会、中国ブロック(高知市)大会、近畿ブロック(和歌山市)大会、「安心の場講習会」(福井市)と行事が連続しました。いずれの会場からも厳しい経営状況の声を聞きましたが、それを打ち消すかのような若者たちの明日への息吹や新しい胎動を感じ、また、関係各位の皆様の厚いご支援を、身をもって体感し、モチベーションを高めることができました。

特に、福井県組合での「安心の場講習会」では24人(組合員数22店)の参加と参加者、講師の方々の熱意で大いに盛り上がりました。設立50年を超えた当組合は、年2回から4回の総会をされて、組

合員の結束を図り、常に組合活動のあるべき姿を示し続けていただいていることに敬意を表します。

昨年12月の中央道トンネル天井崩落事故の大惨事では、安心の場の構築に、日頃の点検業務が極めて重要であることが再認識されました。我々業界も他人事とせず、バレーボールネットセッティング時の事故防止を始め、スポーツ場面での「安心の場」構築に全力を尽くすべきとの認識を持っています。メーカー様はじめ、関係各位が小異を捨て、連携を強化できる場の構築に一役買えればとの想いです。継続して、この課題に取り組むことをまず表明して、以下今年のJSERAの活動目標、事業予定等を、皆様にお示し致します。

今年のJSERAは「次代に向けたプラス考動を」のスローガンの下、粘り強く活動を進めて参ります。

1. 震災復興対応について

昨年10月28日宮城県石巻市において復興ウォーキング大会を実施いたしました。皆様のご協力により成果を上げることができました。また、ブロックで支援事業をしていただいたところもあります。今年は、岩手県福島県で実施に向け検討中です。

1. 東京オリンピック・パラリンピック招致活動への協力

ルールを守りつつ、精一杯協力したいと考え

ています。昨年11月に全組合員に招致ポスターを配布し、店頭掲示運動を行いました。極めて重要な時期にさしかかっていることを認識し、積極的に協力したいと思います。

1. 広報活動の改革について

JSERA レポートを中心に行ってきた広報活動を、ホームページの活性化、ネット媒体活用等により、多角的に展開して行きます。ブログ、ツイッター、フェイスブック等を有機的に活用することを視野に情報収集と発信に努めます。

1. 全国大会等売店活動の検証と改善

昨年より三大全国大会連絡会議を実施し、開催組合と次開催組合でより細かな情報を共有し、成功に繋げるよう努力しています。ここ数年、記念品の販売により全国大会を盛り上げようという趣旨をいささか逸脱し、自社の残品処理に軸足を置くような流れや、地元の意向に沿わない強引な手法を用いる業者に眉をひそめることがあります。また、従来のようなワンパターンの記念品では魅力が低下し、せっかくの参加者に満足して頂けないこともあるようです。「大会を盛り上げる」という原点に戻り検証と改善に取り組みます。

1. 利益率向上とそれに関わる商材、及び「三層協調の場」醸成に関する取り組み

利益の上げられる商材は、誰もが欲しいものです。ライン材（無害くん、JSERA エコライン、ガイヤ）は定着し、実績を上げています。それに続く商材の開発が急務です。また、定着したライン材についても、価格競争の影が忍び寄っています。その対応が課題です。利益率向上は、商材にだけ関わるものではありません。メーカー・卸様との関わりも大切と考えます。また、ネットによる乱売も注視する必要があります。とりわけ、公正な競争を逸脱したネットショップにはメーカー・卸様と協調した取り組みが大切です。価格競争に陥らない「WIN-WIN」の関係構築を忘れてはなりません。かかる場の醸成にも共生委員会を中心に取り組みます。

1. その他

各委員会の継続事業は、切れ目なく実施いたします。活動については、いわゆる3層の関係はもちろんのこと、スポーツ用品公正取引協議

会、(社)日本スポーツ用品工業協会、(一財)製品安全協会、日本スポーツイベントサービス推進協議会の皆様をはじめ、私たちの活動を力強くサポートしてくださる関係諸団体の方々との協力関係を大切にしたいと考えます。

「宣誓……感謝し……全力でプレーすることを誓います。」と宣誓した岩手県大船渡、赤崎野球スポーツ少年団佐藤主将の目は輝いていました。昨年12月8日に開催されたJSERA 近畿ブロック協議会主催、甲子園親善軟式野球大会の開会式です。前夕、M7.3の地震に見舞われ、仙台空港一時閉鎖で最終チームが来阪したのは日付の変わった0時30分になるというアクシデントにも関わらず、選手たちは甲子園球場を駆け回りました。よく被災地の子ども達を勇気付けようと訪問したが、逆に勇気付けられた話は聞きますが、キラキラ目を輝かせ、グラウンドを飛ぶように走る姿は、こちらのほうが元気を頂いてしまいました。厳しい状況があれど、前をしっかりと見つめている姿に感動しました。高校生になったら、球児として、甲子園に帰って来て欲しいと願わずにはられません。

私たち地域スポーツ専門店は、子供たちの健やかな成長に、青少年の夢の実現に関われることを誇りに想い、店の経営を行っています。また、各スポーツ協会の運営に協力したり、地域スポーツ活動をサポートするなどボランティア活動も積極的に行っています。このことが、厳しい経営に関わらず笑顔でいられる原動力だと思います。「安心してスポーツができる場」の構築を始め、売店活動の収益等による「児童養護施設にボールを贈ろう」等の社会貢献事業、その他、地域の課題を的確に受け止め、真摯に対応していきます。「スポーツを通じて社会貢献する」という立場を明確に打ち出して行動し、地域におけるスポーツオピニオンリーダーとしての輝きを一層増すよう努力します。

メーカー・卸の皆様、さらに関係諸団体の方々といわゆる「WIN-WIN」の関係を築きつつ、目標に向かって進みたいと思います。厚かましくも、みなさま方には、尚一層のご理解、ご協力をお願いし、新年のあいさつとさせていただきます。

『笑顔に感動』

活性化委員会 委員長 土赤光宏
愛知県スポーツ用品商業協同組合 理事長

はじめに、本大会が感動を覚え無事終わりました事
ご報告申し上げますと共に宮城県スポーツ用品協同
組合松村理事長様を中心とし、組合員様の素晴らしい
結束力にそして力強いパワーに感激しました。

秋冷が感じられる曇り空の中、このたびの『東
日本復興ウォーキング大会 in 宮城』には、遠く
は鹿児島からも参加していただき総勢 200 名の
ウォーカーが颯爽と元気よく石巻市役所前にぎわ
い広場に集まりました。

出発までの時間、幾人かの方達にお話を伺い特
に感じた事として小さな男の子がお父さんから最
後まで自分の力を信じ頑張るんだぞと話をしてい
る姿の親子愛を感じた事。仙台市内から参加して
くださったご夫婦は、これを機会に人に役立つ事
が一つでも出来る様前向きに人生を有意義にして
行きたいとお話をしてくださった事。東京から参
加してくれた男子高校生は、まず自分の目で確か

め何か出来るのではないかと言う思いから参加し
た事。素晴らしい親御さんの教えが有るからこそ
行動出来るのだと感じました。岐阜県から一人で
参加された女性は、26日に宮城県気仙沼に入りま
ずボランティア活動をされてから大会に参加、そ
の足もう一度気仙沼にボランティア活動へ行きま
すと笑顔でお話をされたことに感動を覚えました。

次に出発式では、重森 JSERA 理事長様の大会
挨拶に始まり、松村宮城県理事長様の出発宣言で
参加者のみなさんが一斉に元気よく出発して行か
れました。

道中は曇り空から一時雨も降りましたが、みな
さん笑顔で歩いて見えました。中には、震災のつ
め跡を今一度認識しながら歩いていただいたので
はないでしょうか。一番のキーポイントは、何と
言っても日和山公園でした。100 段以上ある急な
階段を皆さんには登り歩いていただきました。こ

「東日本復興ウォーキング大会 in 宮城」に参加して…

三重県スポーツ用品協同組合
副理事長 松山健一

3.11の東日本大震災後の現地復興には、まだまだ時間
が掛かると思いますが、震災後1年9ヶ月がたち被災地
の石巻を訪れ、災害の爪痕を目の当りに見て、想像を絶
する甚大な被害現場の無残な姿に何を言っているのか、
その表現が出来ないほどの末恐ろしさを感じました。

74人の小学生と10人の教職員が津波の犠牲に
なった大川小学校を訪れ、献花をした時に私の胸を
襲った、強烈で悲痛な思いは忘れる事ができません。

夕食時の慌しい時間帯に慰問させていただいた178
の仮設住宅を訪問した時も、皆さん家族が笑顔で私達
を出迎えて下さり、頭を深々と下げられて「遠くから
わざわざ来ていただいて…」と感謝の意を伝えて下さり、
この先この地域の復興に向けて頑張りますので今
後も見守って下さいと言っておられました。

日本スポーツ用品協同組合連合会理事の土赤氏には
ウォーキング大会参加に際して、大変お世話になりま
した。JSERAの一員として東日本復興支援活動にさ
まざまな形で企画をされて、(こころはひとつ絆Tシャ
ツ) や (スポーツタオル) の販売、(仙台ジャーキー)

の販売等を積極的に行われ、東日本復興ウォーキング
大会 in 宮城の参加の働き掛け等土赤氏自身が身を粉
にしてがんばって居られる姿を見て、ただただ感服の
至りです。ほんとうにお疲れ様です。今後も、日本ス
ポーツ用品協同組合の理事として、特に東日本復興支
援活動には、これから先も何らかの形で拘る事を願
いたいと思います。

微力ながら我々にも地域の組合員として、なんらか
のお手伝いが出来れば幸いに思います。



これは、震災当日みんなが避難してきた場所でもあるからです。これだけの急な階段を良く登れたなあと感心させられる場所でもあります。

ゴール近くになりますとみなさんは、さらに元氣となり足も軽くなる様で仲間との話し声も大きくなっていました。時間の使い方もみなさん良くしたもので歩きを楽しみ、そして時間を惜しむようにきっちり時間いっぱい使い歩いて見えた方もいらっしゃいました。

ゴールでは、宮城県組合員のみなさんが笑顔と大きな拍手で出迎え、参加者の方達の笑顔には、達成感と幸福感を感じていただいた事と思います。私としても宮城県組合員のみなさんと一緒に参画させていただけた事に感謝申し上げます。

そして私には、もう一つ感謝申し上げなければならない事があります。JSERA 中部ブロックの皆様から、大型バス代金を全額補助していただいた事。改めて感謝申し上げます。当日は25名の

参加で、せっかく行くなら思いやり活動をしようと思い、まず松島に立ち寄り、石巻市立大川小学校での献花とにっこり団地(仮設住宅)では、みなさんに希望の鶴とお菓子等のプレゼントもさせていただきました。参加していただいた中に、三重県スポーツ用品協同組合の松山様と諸戸様、愛知県スポーツ用品商業協同組合の井上様もいらっしゃいました。心強い三人様のお陰で楽しく笑い多い4日間でした。

今回の歩きを通して、人と人とのふれあいがとても大切なんだと改めて感じ、日本が一日でも早くよみがえる様待つのではなく自らが進んで行かなければならないと心強く感じました。

結びになりますが、本大会に当たりまして全国の組合様のご協力と、ご後援・ご協賛を頂きました宮城県関係各位、各メーカー様のおかげで実施出来ました事心より感謝申し上げます。

再拝

2012JSERA・委員会と担当業務

活性化委員会

委員長 土赤 光宏 愛知県組合理事長
委員 美馬 義一 高知県組合理事長
〃 桑原 勇健 福島県組合理事長

共生委員会

委員長 武宮 兼敏 福岡県組合連合会理事長
委員 松村 善行 宮城県組合理事長
〃 堀田 浩一 岐阜県組合副理事長

広報委員会

委員長 角前 博道 三重県組合理事長
委員 宍戸 幸市 栃木県組合副理事長
〃 尾坂 真人 鳥取県組合理事長

事業委員会

委員長 関水 正章 神奈川県組合理事
委員 関口 孝夫 埼玉県組合会長
〃 笹淵 信嘉 福岡県組合連合会理事

総務委員会

委員長 蓮田 茂樹 石川県組合理事

会計

委員長 前田 哲 大阪府組合副理事長

各委員会の担当業務

活性化委員会

※重点 東京オリンピック招致への協力

1. 「体育の日」の活性化への努力(グローバルに)
2. スポーツ安全対策の推進
(講習会の開催、修了者会他)
3. スポーツ大会の推進(ブロック及び県組合)
4. 各組合法人化の推進

共生委員会

※重点 三層と協調した利益率向上に向けた取り組みの研究

1. メーカー・卸との交流と対話

2. 共生化ブロック組織作り

3. 販売促進活動の正常化

無償提供・直売・レンタル問題への対応
大型店・アウトレット・通販の問題点の
明確化

広報委員会

※重点 JSERA ホームページの活性化及びネット活用

1. 広報誌 JSERA リポートの発行
2. POS 事業の推進
3. 環境問題への理解と実践

事業委員会

※重点 全国大会等の対応と儲かる商材の研究

1. ラインパウダー・ショッピングバッグ・スポーツ安全メガネ事業の推進
2. JSERA の商品づくり
3. 大会情報伝達会議の開催と各種大会への表敬訪問ならびに情報収集
4. 各種大会等のマニュアル作成

総務委員会

※重点 震災復興事業の年度内実施の応援

1. 各ブロック・各組合とのコミュニケーション
2. 総会・(全国大会)・理事会・全国理事長会議の設営
3. PL 保険等の見直し
4. 国際交流
5. その他の委員会に属さないこと

会計

1. JSERA 会計
2. toto 事業の推進

第 14 期 JSERA 理事会・役員会 (行事日程)

平成 24 年 10 月

年	月	日		JSERA 行事	理事会	役員会
24	8			全中 (関東) インターハイ (北信越)		
		28	火	四国ブロック大会 (愛媛) 松山全日空ホテル		
	9	5	水	(会計監査)		第 1 回
		6	木		第 1 回	
	10	27	木	関東・甲信越ブロック大会 (千葉) 鴨川三日月ホテル		
		上旬		国体 (岐阜) 体育の日活性化 (各県組合) [ボールを贈ろう運動]		
		16	火	北海道・東北ブロック大会 (北海道) 札幌グランドホテル	第 2 回	
		17	水	JSERA (定時総会) 全国大会 (北海道) 札幌グランドホテル		
	11	29	月			第 2 回
		5	月	九州ブロック大会 (大分) レンブラントホテル大分		
		7	水	中国ブロック大会 (広島) リーガロイヤルホテル広島		
		13	火	近畿ブロック大会 (和歌山) ダイワロイネットホテル和歌山		
16		金	三大大会 (インターハイ) 伝達会議 (福岡)			
25	1	21	水		第 3 回	
		6	日	関西新年賀詞交換会		
		7	月	東京新年賀詞交換会		
		8	火	名古屋新年賀詞交換会		
		9	水	北陸 3 県新年賀詞交換会		
	2	17	木		第 3 回	
		18	金		第 4 回	
		5	火	JSERA 全国理事長会議 (午後) ホテルコスモスクエア国際交流センター	第 5 回	
		6	水	JSEC 連絡会議 (午前) 三大大会 (全中) 伝達会議 (午後)		
	3	7	木	卸役員との懇談会		
		6・7	水・木	大阪卸見本市		
	4	24	水	正常化対策会議 (大阪)		
		25	木	正常化対策会議 (東京) (共生委員前日入り)		第 4 回
	5				第 6 回	
	6			中部ブロック大会 (富山) 北海道・東北ブロック大会 (青森)		
	7	10	水			第 5 回
11		木		第 7 回		
8			全中 (東海) インターハイ (北九州)			
9	4	水	(会計監査)		第 1 回	
	5	木		第 1 回		
10			国体 (東京) 中国ブロック大会 (島根)			
	23	水	JSERA (定時総会) 全国大会 (島根)	第 2 回		
	24	木				

平成 24 年度第 20 回全国理事長会議

日時 平成 25 年 2 月 5 日 (火) 13 時

場所 ホテルコスモスクエア国際交流センター
〒五五九一〇〇三四 大阪市住之江区南港北一丁目七番五〇

TEL 〇六一六六一四一八七〇〇
FAX 〇六一六六一四一八七一九



ご挨拶

JSERA 日本スポーツ用品協同組合連合会
理事 尾坂真人 (広報委員会)
鳥取県運動用具商協同組合 理事長

この度、5年ぶりに全国理事復帰となりました。前回退任に際し、JSERA リポートで、「適役だから好人物だからと特定の人に役員をお願いし続ける事は、組合員の責任放棄である。」と持論を述べさせて頂いた筈が、それ故に設けられた『中国ブロック会長職各県持廻り制』に則った結果での再登板とは、些か皮肉な巡り合わせであります。

とは言え、指名をお受けした以上、微力ながら一生懸命に務めさせて頂く所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

初めての理事就任となった8年前は、『対大型店』が組合員共通の大きな課題でした。今はこれに『インターネット社会』が加わり小売店の経営を大きく揺さぶっています。『時代の流れ』と言ってしまえばそれまでですが、時代の流れで片付けてしまっても良いものでしょうか？『時代の流れだから』の後に『仕様が無い』が付いて来ませんか？行政、体制にとってこれ程都合の良い言葉は有りません。『時代の流れ』と言った途端に多くが思考停止に陥ってしまうからです。諦めてしまえばそこからは何の解決も導き出されません。弱者連合でもある私たち JSERA 組合員は、『社会に必要とされる存在』としての使命として、時代の流れを泳ぎ切り、自らの立つ瀬を見出し続けていかなければなりません。全国の仲間と手を携え、情報を交換し意見を交わし智恵と汗を出し合って、『町に社会に必要とされる存在』で有り続けなければなりません。共に頑張ってみましょう。

話変わって、平成 25 年の全国大会 (定時総会) は中国ブロックの担当と言う事で、鳥根県組合さんにお引き受け頂く事となりました。鳥取に次ぐ人口・組合員数最少県の鳥根県組合さんには大変な御世話をお願いする事となりましたが、それ故に大会成功に向け全力で支え応援していかなければなりません。10月24日(木)には、ハーン、直哉の愛した『水の都松江』、『神話のふるさと出雲』にぜひおいで下さい。



新理事としての抱負

JSERA 日本スポーツ用品協同組合連合会
理事 堀田浩一 (共生委員会)
岐阜県スポーツ用品協同組合 副理事長

第 13 回定時総会におきまして理事の拝命を受けました、岐阜県スポーツ用品共同組合 副理事長の堀田浩一と申します。

浅学非才、若輩の身、果たしてお役に立てるかどうかは、疑問であり不安でもあります。このような機会に感謝し一度限りの人生の中、与えられた職責に応えられる様、精一杯努力する覚悟です。何卒よろしく願い申し上げます。

委員会は共生委員会ですが、右も左も解らない 1 年生。大ベテランの武宮兼敏委員長、松村善行先輩の背中を見ながら、安心して一步一步、勉強させて頂きます。

元気だけが取得の私、日々の健康管理には気を使って、常に頭の片隅においています。皆様ご存知でしたか、体を動かした後に脳は活性化します。

運動中は一時的に脳への血流が少なくなりますが、運動後、脳への血流が戻った時に、神経細胞の中で BDNF(脳由来神経栄養因子) というタンパク質がさかんに作り出される結果、運動前より運動後の方が学習や作業の効率が良くなるという調査報告があります。

また、記憶力が低下してはいるが、まだ認知症ではない 50 歳以上の人々を対象として、ウォーキングなどの中程度の運動を週 3 回行ったグループが、行わなかったグループに比べて、認知機能が改善したと言う調査結果も出ています。

このような事から考えましても、スポーツのもっている力は素晴らしく、その仕事にたずさわっている我々が認識し、身近なお客様にお伝えする事も、他の職業にない素晴らしさではないでしょうか。この仲間達と JSERA というチームが一致団結して、より良いスポーツ業界を作り出していただきたいと思います。



JSERA 理事就任に際して

JSERA 日本スポーツ用品協同組合連合会
理事 前田 哲 (会計委員会)
大阪スポーツ用品専門店協同組合 副理事長

諸般の事情により大阪組合理事長から命を受けこの度理事に就任致しました。1期2年という約束ですが、先日届いた JSRRA 理事の重い肩書き付きの名刺を手にして、改めてえらい重責を簡単に引き受けてしまったという後悔とこの自分にその仕事が全うできるのだろうかという懸念が頭の中を過りました。しかし一旦引き受けたこと、気持ちを切り替えてがんばろうと思います。諸先輩の皆様ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

振り返りますと約25年前、私の父親も JSERA の前身である全運小連の理事として活動していました。当時は特約商品の量販店への流出問題や、ファミリーセールと称する消費者直接販売の問題などが大きく取りざたされ、組合員の数の力で該当先のメーカーに対して抗議、談判を行なうようなことに力を注いでいたように記憶しています。勿論それだけではなかったのですが時は瞬く間に流れました。小売の店舗数はその頃と比べて約半分に減少、全国の組合加盟店総数も先の全国大会での報告では1400店を割り込むまでになってしまったとのこと。スポーツ用品市場の規模も当時と比較しても拡大成長はなく、決まった枠の中で三層の皆が鎬を削っているといった現状です。そして時代はまさに便利な世の中になり商売の手法も大きく変化しました。IT化に伴いイ

ンターネットでの販売、役所の電子入札導入等10年前には予想すらしなかった姿が現実となっています。しかしその反面、この時代の恩恵を受け我々全員が得をし儲けることができているのかというと全くそうではないような気がします。むしろ誰が得をしているのか探すのが難しいのではないのでしょうか？

重森理事長が2年前に就任された際、儲かる商売、粗利率粗利益の取れる小売店の仕組みを提案していこうというスローガンを掲げられました。まさに組合員全員がそれを待望しています。そしてそれを実現するためには我々全員が知恵を出し合うと同時にスポーツ業界全体のモラルの向上努力が不可欠であると思います。時代が変わり今は業界全体が協調共生と真剣に考えなければならない時期になっています。自分だけがよければいいという利己主義的な考え方ではなく、三層それぞれが業界での運命共同体であることを再認識し次の世代が喜んで引き継いでくれるような業界に一步でも近づくようがんばろうではありませんか。「協同組合とは、共通の経済的・社会的なニーズを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」との定義に則り私もその一員として微力ではありますが努力していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

軟式少年野球大会「夢の甲子園！」開催報告

主管 兵庫県運動用品商業協同組合

理事長・大会実行委員会委員長 讃岐 和子

副委員長 尾川 一郎

JSERA 近畿ブロック協議会

会長 重森 仁

近畿では、高校野球の聖地、『甲子園』が身近にあり、それを目指して努力している野球少年より高校球児まで含めると 100,000 人以上もいると言われています。

目標に向かって日々練習に明け暮れている選手、それをサポートされている関係者の姿に、頭が下がる思いです。

しかし、甲子園への道は、険しいものがあり、挫折を味わい夢半ばで野球から脱落していく姿も、少なからず目に付きます。

現実には、近畿の子ども達にとっても、「甲子園は、近くて遠い存在」なのかも知れません。

スポーツ用品、とりわけ野球用品はその主力ですが、その販売等を生業にしている私たち組合員にとって、一人でも多くの子供たちが、野球に、スポーツに親しみ、心身を鍛え立派に育ててくれることは大きな喜びです。

そんな子ども達に、夢を持って頑張りたい、野球を頑張っているなら『甲子園の土』を踏ませてやりたい、そして「いつまでも野球を続けて欲しい」との想いと、出場チームのお世話役 JSERA 各店との絆も深めていただきたく、今回の企画となりました。

また、東日本大震災で被災し、それでも野球を続け甲子園に向かって日々努力を続けている子ども達も少なくないと聞きます。

その子たちにも「甲子園の土」を踏ませてあげたいと参加を呼びかけ、子どもたちの夢階段の一步とし、気持ちの復興をお手伝いできれば幸いと

の思いから開催を決定いたしました。

ところが、開催前日の宮城県沖のマグニチュード 7.1 の地震のため、離陸予定が大幅に遅れ空港での待機を余儀なくされ、午後 9 時を回ってから離陸許可ということになり、甲子園球場近くの旅館までたどり着いたのは夜半過ぎでした。翌朝 8 時集合という小学生にとっては非常にきついスケジュールであったとは思いますが、翌日の試合には生き生きとした顔つきで入場してきたときには、主催者として安堵の気持ちを持ったことを鮮明に覚えております。

開会式、試合、野球教室、歴史館見学、そしてメディカルチェックと過密なスケジュールもこなしていただきましたし、開会式の選手宣誓は岩手県大船渡市からのチーム主将に行っていただきました。

試合は近畿地区 2 府 4 県より 11 チーム、東北 3 県、岩手、宮城、福島より各 1 チームとし、制限時間 50 分で 7 試合、その後阪神タイガース現役プロ選手による野球教室、甲子園歴史館見学、



そして春夏の高校野球で行われている肘、膝、肩、腰のメディカルチェックを受けていただきましたところ、残念ながら肘の障害が多かったようにお見受けします。少年時代から肘障害を抱えますと、中学、高校で野球を断念せざるを得なくなることがありはしないかと心配いたしますし、野球少年のますますの減少に歯止めがかからなくなるのではないかと危惧いたします。

なにはともあれ、参加していただいた子どもたちは一日「甲子園球場」を満喫していただいたのではないのでしょうか。

そんな子どもたちのよろこぶ姿を見ておりますと、開催した意義は大きかったのではないかと考えておりますし、そんな彼らが高校球児となり、甲子園球場に戻ってくる日が来ることを期待しております。

最後になりましたが、東北3チームの遠征費にご尽力いただきました「大船渡」(岩手県)、「多賀城」(宮城県)、「白河」(福島県)、「西宮甲子園」(兵庫県)の各ロータリークラブ、東北チームのためにバスをチャーターしていただいた「西宮市」、選手たちに出場記念メダルを授与していただきました「朝日新聞社」、野球教室を運営していただいた「阪神タイガース」、メディカルチェックを実施していただいた「整形外科医と理学療法士」、試合を運営していただきました「西宮市軟式少年野球連盟審判団」、そして大会当日お手伝いいただいたJSERA近畿各店のみなさま、これらの方々のご協力をいただき事業を行うことができましたことに感謝申し上げます。



新理事長としての抱負

栃木県スポーツ用品販売協同組合

理事長 石崎 照雄

本来スポーツ店の仕事とはアスリートと対面し、その人の求めをできるだけ理解しようと努力して、その必要性など価格においてもより良い提供ができる。そこに、お客様との信頼関係ができる。そんな仕事ぶりが本当であろうと思う。しかし近年世界のグローバル化、ネット社会化から、スポーツ業界も大型店、外資系資本のチェーン店化など、大きな渦に巻き込まれてしまいそうなのが現状でしょう。その波との競争に追われ、思っているような仕事が出来ないのも現実です。現に当組合においても、その店舗数は年々、減少傾向にあり、現在は25店舗となってしまいました。

今、デフレ不況下にあって、この現象に、どう対処すれば良いのか、次世代にどうつなげてゆけるのか、悩めるところです。しかし、今だからこそ、「商いの原点は小売である」と心得、単に価格のみの競争に走らず、お客様1人1人を見据えて、小売りならではのアイデアを持ち寄る時なのではないのでしょうか。そもそも組合とは、役員のみが話し合う組織ではなく、組合単位の利益のみを追求する団体でもないのです。こんな時こそ、互いの知恵を出し合い、ノウハウの提供をし合い時間を共有することで悩みを考える場となっても良いのではないのでしょうか。たぶん、その悩みは、他の人も共感するところがあり、話し合うことでそれぞれの情報や意見の交換から問題解決の糸口を得て、より楽しい店舗づくりを、小売ならではの商い方を見つけられたりするのではないのでしょうか。そしてそれが、個々の利益となり、ひいては、組合員による組合の利益につながるなんていいですね。

ぜひ全員参加の心を持って協力をして下さいますようお願いいたします。

埼玉理事長としての抱負

埼玉スポーツ用品小売商業協同組合

理事長 青柳 征文

この度、私は6月の通常総会におきまして理事長に就任いたしました青柳(69歳)でございます。

総会は三県合同(埼玉・栃木・群馬)で行われ、今回は栃木県が主管にて鬼怒川温泉で開催されました。

6月6日 三県総会当日、日光市だいや川公園パークゴルフ場。メーカーさん、問屋さん含め三県組合員の有志が集まりパークゴルフをさせていただきました。精神和やかなうちにスタート。私もパークゴルフは初めての経験でしたが非常に楽しくプレーする事が出来、大きな声を出し大笑い、ストレス解消となりました。

15時過ぎホテルに入り、三県別室にて総会。夜はお決まりの三層懇親会。三県合同という事でメーカーさん、問屋さんも2人で参加する会社もありました……。最中、パークゴルフの表彰式で懇親会も大盛り上がり。時間が経つにつれて埼玉、栃木、群馬の組合員同志の輪が自然にいくつも出来ました。三層交流がより一層深まる中、大成功のなか、終わりました。

「さすが栃木!!」

これからの三県合同は衆知を集め新しい肉付けをして前進しなければならぬと思いました。

最初に私が(69歳)と書いたのは、前理事長関口孝夫氏が3期6年55歳での勇退となったからです。温和な性格で決断の早さと実行力は組合活動には欠かせない人物でありました。

埼玉組合内部の問題ではありますが世間では若返りが常識になっているにもかかわらず、時代の流れに逆行した人事になり残念でなりません。私に出来るか自問自答した時、

「今は何も考えつきません」

「今は何も出来ません」

でありました。

少しずつ時間が解決の糸口を捜して組合活動に役立つ事があれば与えられた場を自分の場と信じてやればいと割り切りました。今は組合員が希望をもてる様な運営を一期二年でやりたいです。

苦勞であっても苦痛ではない。

理事長としてひと汗かく!!

新理事長としての抱負

神奈川県運動具商協同組合

理事長 山岸 義明

本年、神奈川県運動具商協同組合は昭和39年に任意組合として発足後、協同組合に移行してちょうど35年になります。

1998年の神奈川国体開催時104社有った組合員数も現在50社に減少致しました。時代の流れとは申せ誠に悲しい事と思えますネット販売・量販店の攻勢・少子化は確かに経営の圧迫をしていることは事実です、しかし地域密着型の小売店は其の存在こそ社会性が多々有る様に思います。「小売り店を減らしてはダメ」これは私の一貫した信念です。しかし、ただ社会のお役に立つだけでは経営は成り立ちません、そこに明るい未来が無くては到底組合員数の減少に歯止めは架けられない事も事実でしょう。そんな中理事長と言う重責を拝命し半年、今だ何も出来てはおりません。しかし私には、10人の優秀な理事と1名の事務員が居ます、彼らとともに何とか此の苦境を乗り越えて明るい未来を創造出来ればと常に考えております。

JSERA様には圧倒的な非組合員との差別化で我々に明るい未来と希望を切望致します。



新理事長としての抱負

山梨県スポーツ専門店協同組合

理事長 田邊裕人

こんにちは！この度、神山利秋前理事長の後任として、平成24年5月の総会に於いて就任しました田邊裕人と申します。微力ではありますが、組合の発展と組合員の幸せとそれぞれの店にプラスになるような環境整備に力を尽して参りたいと思います。

山梨県スポーツ専門店協は組合員16名と少数ではありますが、平成8年のインターハイ（当時は全種目単独開催）開催以来、組合員の良識とチームワークに支えられて今日迄に至っております。その裏付けとなるものが、インターハイ時の利益から組合基金の積み増しと高体連への寄付（500万円）をさせて頂きました。その結果、協賛ボール（バスケット、サッカー、ハンドボール他）の組合からの納品が可能となり、その後組合基金を減らすことなく毎年貴重な収入源となっております。

昨今の我々スポーツの業界は年々厳しさが増すばかりで閉塞感が漂っております。このような状況の中で毎年中学校高校の各種大会が目白押しにあります。その広告依頼（中味は寄付金）にどの様に対応されているのでしょうか？私どもの組合では一部の大会には組合の広告を出し、個々の組合員の店には広告依頼が行かない様にして少しでも無駄な出費を抑えることが出来れば組合の重要な役割の1つであると思います。

この方法では済まない場合もありますが、来年度に向けて実行して参りたいと思います。

次に組合員にとってトクになる話をもう一つ。ボール類の共同仕入です。A・B・C球ソフトボール、テニスボールを組合に一括仕入をし、仕入代金の一部を組合より補填をし、組合員に安く提供する事業です。既に10年位継続しております。

組合員の活性化、会員の拡大を活動の大きな目標として掲げておりますが、組合の求心力を高めるには大きなイベントが一番です。

成功裡に終了しました平成24年の全中大会、平成26年のインターハイ（陸上を中心7種目）を成功させることが当面の目標であります。

これからも組合員にトクになる事業を積極的に推進し、相互の親睦を十分深めながら運営して参りたいと思いますので今後ともよろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

新理事長としての抱負

長野県運動用品専門店協同組合

理事長 後藤信治

本年度総会において、大工原理事長の後任として、長野県運動用品専門店協同組合の理事長を、おおせつかりました、ゴトースポーツの後藤信治と申します。

私事ですが、時の流れは早いもので開業以来30余年が過ぎましたが、いまだに大変厳しい状況は続いております。かつては、県内4地区に分かれ活発に活動していたようですが、高齢化により実店舗の減少に伴い現在県内全域で組合加盟店は、21店にまで減少してしまいました。また、県内面積も広く一堂に会する機会は、唯一総会時だけになってしまいました。

本年度は、組合事業の事業として、2012高校総体（かがやき総体）売店事業、長野県は、サッカー（松本）・弓道（松本）・相撲（長野）・卓球（長野）の4種目4会場で一週間くらい、真夏の暑さに参りました。また、全中北信越ブロック大会10種目で2日間全員で売店に携わりました。

今後は、このような売店の事業をきっかけに、全組合員の交流が図れたらと思っております。

こんごともご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



新理事長としての抱負

奈良県運動用具小売商協同組合

理事長 辻川 準 一

平成 24 年度第 31 回通常総会における役員改選で野田 詢理事長の後任として、奈良県運動用具小売商協同組合の新理事長を拝命しました辻川準一と申します。

長年にわたる野田前理事長の功績は多大な事とおもいます。この度、新理事長の就任にあたり、はたしてこの職務を全うできるのか、責任の重さを痛感しております。

さて、今回の改選にあたり野田前理事長との組合事業での思い出が沢山あります。特に平成 21 年全国高校総体、平成 22 年 JSERA 定時総会奈良大会は思い出深い事業であります。総体は平成 19 年より関係各所への挨拶廻りから大会終了後の挨拶廻りまでの大変長い期間の事業でありました。また、平行して平成 21 年より全国総会への取り組みとして鹿児島県で開催されました全国総会には当組合より 11 名が参加し参考にさせていただきました。この 2 大事業については組合員のすばらしい結束力が発揮されたと自負しております。また、昨年度は近畿ブロック協議会としての全国中学校体育大会、当組合主管の近畿ブロック協議会定時総会、そして、当県協同組合設立 30 周年を迎えさせて戴き大変な 1 年間でありましたが無事成功裏に終わらせて頂きました。これもひとえに日本スポーツ用品協同組合連合会、近畿ブロック協議会、役員各位のご指導ご協力のお陰と感謝申し上げます。

組合活動の活性化には先に述べました各種大会イベント等の他、組合員店一軒一軒の繋がりメーカー、卸し、賛助会員様との結束が必要かと思えます。ここ数年の間、当県に於いても大型店の進出があり、お客様の流れが大きく変わりましたが、放置しないで組合員の皆様と共に、以前の流れへと戻す努力をし、次世代へ引き継ぎたいと思えます。

最後に、JSERA 組合員皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

新理事長としての抱負

和歌山県スポーツ用品小売協同組合

理事長 瀧本 明 生

和歌山県スポーツ用品小売協同組合（法人登記平成 23 年 9 月 1 日）の前身であります和歌山県スポーツ用品組合が昭和 41 年頃の設立以来約 46 年間先輩達の努力によりまして活動をしてまいりました。

組合法人化しましたことにより和歌山県体育協会をはじめ各市町村体育協会及び各競技団体へ積極的に係わってゆきたいと考えています。

和歌山県は平成 27 年に「紀の国わかやま国体」の開催予定となっております。このビッグイベントの成功に向けて協力してゆく所存です。この平成 27 年は大変な年で 8 月に高校総体の開催主管県でもあります。近畿で開催するのでありますが、開会式・陸上競技他 2～3 の競技が和歌山県下で開催される予定です。以上のようなビッグイベントに対して私達組合側もしっかりとした体制作りをする所存です。

私達組合員は地域スポーツ振興のため今迄長い年月に渡り微力ではありますが貢献してまいりました。これが我々組合員の誇りであります。これからも商売と平行して地域のため努力してゆく所存です。

組合員増強についてであります。現状は誠に厳しく組合員数も年々減少しているのは皆様ご承知のとおりであります。国体開催ということもありますが、何とにも減少に歯止めをかけるための努力を重ねて新規組合員の獲得に努力してまいります。

組合事業についてであります。例年通り国体和歌山県選手団及び役員のユニフォーム販売、「和歌浦ベイマラソン with ジャズ」という市民マラソン大会においてメーカー売店への協力。組合員にメリットのあるような共同購入の企画実施を考えたいと思えます。つきましては近畿の組合様のお知恵をお借りせねばならないと考えております。

最後になりましたが、和歌山県組合員の協力の下また JSERA 様、近畿ブロック協議会様のご指導の下、和歌山県組合のさらなるステップアップを図ってゆきたいと思っております。

新理事長としての抱負

島根県スポーツ用品組合

理事長 浅津博行

この度伊藤理事長のご指名により島根県スポーツ用品組合の理事長に就任しました有限会社セントラルスポーツ 浅津博行です。よろしくお願いいたします。

当組合は昭和 57 年くにびき国体に向けて同 55 年にスポーツ用品協同組合として設立し平成 16 年まで 22 年間協同組合として活動してきましたが、平成 16 年に開催されましたしまね高校総体後には任意組合としての活動となり、一時は JSERA に加盟の 3 店のみで活動してまいりました。現在は 11 店にまで回復しましたが、平成 28 年には中国ブロックで高校総体が開催されますのでさらに多くの店舗に参加を呼び掛け皆で協力して、島根県の組合活動を活発にしていきたいと思っています。

スポーツ業界のみならず日本経済全般がこれまでになく冷え切っているこの厳しい状況の中でさらにインターネットによる通信販売や大型店舗による乱売での価格破壊で追い打ちをかけられてスポーツ店の経営がこれまでのようにはいなくなってきました。そういう時代だからこそ皆で協力して業界自体の活性化をはかりひいては日本経済全体をも牽引していかなくてはならないと思っています。また、戦後一番の団塊世代が大量に会社を退職し仕事を持たない高齢者の割合が増え時間を持て余しています。その人達の健康を維持・増進させるお手伝いをするのも医療費を削減し次世代への負担を軽減するためにもスポーツ業界に課せられた使命だと思っています。ピンチをチャンスと捉えて頑張りましょう。

平成 25 年には JSERA 第 14 回定時総会が 10 月 24 日に中国ブロックで尾坂会長を中心に「水の都松江」を主会場として開催します。今年はちょうど出雲大社が 60 年に一度の大遷宮を迎えます。5 年かけて大屋根の葺き替えが終わり見事にできあがりました。 昨年の北海道大会同様に実りの多い大会に成るように頑張りますので是非たくさんの皆様の参加お待ちしております。

新理事長としての抱負

岡山県運動具商協同組合

理事長 治郎丸真介

2012 年、5 月 30 日に開催された「第 36 期岡山県運道具商協同組合通常総会」で、新理事長に選任されました、治郎丸 真介（ジロウマル シンスケ）です。

前任の山下理事長が余りにも偉大で、かつ積極的に組合活動をされていただけに、大きな重圧と不安の中での理事長就任でした。

思い起こせば、29 年前、私が起業と同時に入会した当時の理事長が山下前理事長のお父上（故人）でしたので、何らかのご縁を頂いているのだと感じ就任を引受けさせて頂きました。お引き受けした以上は、「治郎丸を指名して失敗だった」など、何処かの政党の党首のような事に成らないよう、一生懸命努力する所存です。

当組合へは 29 社が加盟していますが全国を見ますと岡山県と言う地方の県としてはまずまずの加入率だと思っています。この 29 社が力を合わせ、当組合の目的である「組合員の相互扶助の精神に基づき、共同事業行い、自主的な経済活動を促進し、経済的地位の向上を図る」を実践出来るよう頑張ります。また、次回全国大会を中国ブロックでお引き受けするに当り、担当県の島根県組合さんを中心に我々、岡山県もしっかり応援態勢を整え、全国の仲間「来てよかった」と思える大会にしたいと思っています。

平成 28 年度には中国ブロックでインターハイも予定されています。先に書いた目的の一つ「共同事業」を実践するまたと無い機会ですので、これに向かって頑張ります。

私の様な小さな会社の意見は、ほとんどメーカー、国等公共機関へは届きません。しかしみんなが集まり声を上げ続ければ無視できない筈です。また声を上げるのも仲間が居れば上げ易く、後ろを振り向けば仲間が居てくれる。これこそが組合の存在価値と信じ、任期 2 年間で微力ではありますが精一杯頑張らせて頂きます。

新理事長としての抱負

山口県スポーツ用品小売協同組合

理事長 村重光範

山口県スポーツ用品小売協同組合の村重と申します。よろしくお願い申し上げます。

我が山口県では、組合理事長は任期があり、任期が過ぎれば再任はしない事になっております。私が理事長に指名された時、なるほど私もこんな年齢になったんだなあと思いました。つまり、意識のステージが低い状態からのスタートです。

よく、組合員や組合以外の同業の方から、組合に入って何かメリットがあるのかと聞かれます。たしかに、2011年の山口国体では、組合員が一致団結してそれなりに結果を出せ、組合員にいくらかの委託料を配ることができました。今後は全中、インターハイなどがめぐっては来ますが全組合員に具体的に結果を示す事は出来ません。其の事がすべてとは思いませんが組合員の皆さんを納得させる答えを見つけていません。

世は、デフレスパイラルで消費の冷え込み、大型店の出店攻勢（山口県は、人口140万人で、いわゆる大型店が10店舗ありさらに出店計画があります。）、ネットショップによる価格競争、また、ますます縮小する入札等のビジネスチャンスの中で、組合員同士の取り合いなどきびしい状態が続いております。その中で、何かヒントをつかみたく全国大会に出席させて頂きました。パネルディスカッションがあり1、地域密着2、外商強化3、マーキング等の付加価値をつける。この3点がテーマになっていたと思います。しかし、これらはいずれも言い尽くされたものです。改めて、このことを確実に実行していくしかないと思いました。時代が、大型店が、ネットが、などと言い訳などせず、この基本の3点に立ち返りもちろん自社も含め、個々の努力を促し、思いを強くし、そのことを組合員の方々にも浸透していくことを私自身の組合理事長の仕事の柱として、尽力していく所存であります。

「生き残るために 協力し合える環境作り」 (新理事長としての抱負)

愛媛県スポーツ用品小売商組合

理事長 高倉浩紀

JSERA リポートをご愛読の会員の皆様、こんにちは！平成24年2月より愛媛県組合の第13代目理事長の高倉浩紀（50歳）です。我が愛媛県組合は現在28店加盟により組合活動を行っており、東予地区、中予地区、南予地区、の3ブロックで2年ごとに新理事長を選出しております。この度「ついに順番が回って来た！」次第であり、若輩者ですが理事長と言う大役を仰せつかりました。

これも大変頼もしい諸先輩方が多数在籍してくれており、暖かい目で見ているおかげだと諸先輩方に敬意を表する次第であります。また、組合の中でも世代交代の時期を迎え私のような二代目も増えて来つつあるように思います。

組合にはそれまで先代の親父が参加させて頂いており、私が初参加させてもらったのが平成15年の総会からでした、正式に代表者としての参加ではなく親父に「今度の総会は近くやから、お前行ってみ！」と言われて「じゃあ、行こわい」と言って総会に出たのが組合デビューでした。

私は平成元年の27歳の時に家業を継ぐ為に大阪から戻り23年、現在に至っております。

大阪では5年間、スポーツ用品とは別種類のセールスとして給料を頂きながら仕事のいろはを教わったように思います。当時はバブル全盛期でとにかく何でもが右肩上がりの時代でした。

あれから20年（きみまる風ですが…）商売がこんなに厳しくなるとは誰が予想したでしょう？

このJSERA リポートも書くのが3度目です。最初は7月No.61に四国ブロック協議会中の愛媛県報告として、次は11月No.62に第10回JSERA 四国ブロック大会報告を書かせて頂きました。今

回新理事長としての抱負をと、いきなり FAX を頂き妻からも「理事長の仕事も結構あるがね。」と超他人事のように言われ悪戦苦闘中であります。

今の時代、本当にモノが売れなくて品物は溢れています。安いからと言って消費者は飛びつきません。欲しいものを必要数だけ最適価格で手に入れる時代です。欲しい物とはやはり何かしら魅力があるものであり、魅力ある商品とは何か？また売る為の接客や外商はこれでイイのか、いつも「それは何？」と考えています。これは品物を売る以上、永遠の課題ではないでしょうか？

折しも先日ご当地ゆるキャラグランプリで我が愛媛県今治市の“バリィさん”が1位を獲得！今治市は我が西条市のお隣でもあり、“バリィさん”の方言セリフが面白いゆるキャラです。

ゆるキャラ1位になった今、ぬいぐるみ等の“バリィさん”グッズが品切れになっているようです。やはり魅力あるものに育て上げた今治市の努力の賜物だと思います。

我が愛媛県組合ではここ数年11月に【意見交換会】と言う【定期総会】とはまた違う雰囲気の会を開催しており和気藹々とした飲みニケーションのある情報交換の場を設けています。

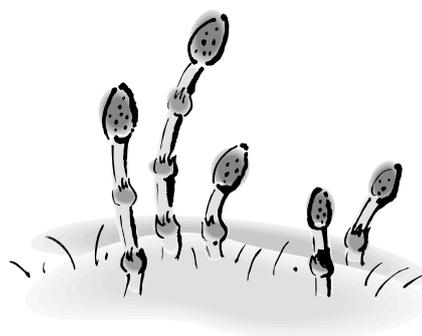
余談ですが、役員改選を控えた年には大体この時に次期理事長が決まるように思います。去年のこの時、現在専務理事の大上氏が「専務するけん、理事長どうぞ！」と言ってくれたので安心して理事長をさせてもらう事となりました。私も平成20年、21年に専務経験があり“専務はたいへん！”と思っていたので専務理事には今年1年本当に感謝しています。専務の素晴らしい段取りのお蔭で【第10回四国ブロック大会】も成功し、札幌での【第13回定期総会 2012 北海道全国大会】にも行かせてもらう事が出来ました。今回専務は所用の為惜しくも札幌には行けなかったのですが、来年は一緒に全国大会に行きたいと思います。折角組合役員をさせてもらうのだから行ける時に行き、見聞

を広めるのも大切です、そこで出会う仲間といろいろな話を交わす事も貴重な経験だと思います。

と、ここまで書いて「抱負とは何ぞや」と言う事ですが、やはり【意見交換会】等に於ける組合員同士のコミュニケーション、『生き残るために協力し合える環境作り』が大切ではないかと考えます。我々が商売する上で小売店以外の敵が多すぎる昨今、現実的に言えば同業者は競い合うライバルであり、仲良く出来る仲間でもあります。がここは後者の『仲間』と言う所をメインに押し出し未来に繋げて行きたいと思うのです。組合員同士が潰し合いをしていたのでは、組合員以外の第三者に足元をすくわれます。組合員同士として馴れ合いにはならず一線を引き、互いに協力して行きたい！と考えます。厳しい時代を知恵を出し合い共に乗り切ろうとする思いや気持ちを持つ事の大切さ、そして一生懸命頑張る事は素晴らしい事ではないでしょうか？そして仲間同士が集い苦労話や情報交換をしながら商売を続けて行ければ幸せだと思います。

正に大切なのは『生き残るために協力し合える環境作り』ではないかと思うのであります。

2014年には四国で全中が開催され、2017年には愛媛国体も迫っており、組合員一丸となって成功させたいと願っています。その時にも一緒に汗を流し、協力できる仲間がいる事は素晴らしい事ではないでしょうか！



新理事長としての抱負

佐賀県スポーツ用品協同組合

代表理事 小池 正

佐賀県運動具商組合は1976年に開催された佐賀国体を機に設立されました。

その後、組合員は徐々に減少して2007年の佐賀総体が開催されたときには、組合員数が13店まで減少していました。佐賀総体では出店申請の時に、地元の市町村に組合員がいないなどのこともあって、前中島理事長のもとで組合員を増員しました。そしてみんなの協力のおかげで佐賀総体を成功させることができました。

佐賀の組合設立当時は、日本の高度成長期で、メーカーさんも「造れば売れる」古き良き時代でした。その頃入社した私は、業界のことは右も左も解りませんでした。組合の販売員としてバッチやネクタイピンを大量に売って全国に配送していたことを思い出します。

現在の組合員数は2007年佐賀総体時の19店から14店に減りました。規制緩和の流れもあり、2006年には佐賀市に大型店が2店出店した影響もあって、残念ながら5店減少する結果となりました。5店のうち2店は経営不振による倒産、2店は廃業で1店は退会によるものです。

私の親の時代に設立した組合は時とともに風化して、メリットのない組合と言われています。新規組合員の勧誘もますます厳しくなっています。しかし、2012年のスポーツ用品小売市場は前年対比101.3%の1兆7091億円と予測されています。全体の市場は縮小していないのにどうしてこの業界は悪いと言われるのでしょうか？再度、組合のスタンスを考える時期に来ているようです。

スポーツ用品業界は大型店の出店、競技人口の減少、高齢化の進行、価格競争などとりまく環境が激変しています。その中であって、自分がどの分野でシェアをとって行くかを明確にすることが肝要となってきました。市場は存在します。

地域内の競合はあったとしても、組合員の絆を大切に、その中から、お互いに様々な知恵を出し合って、自社の存在価値を訴求しながら、自社の発展につながるよう努力することが、組合の発展にもつながると思います。代表理事の任務を最長2期で引受けましたが、その間、微力でも組合員のお役に立てばと願っています。

佐賀の組合では①に組合員の連帯②に経営基盤の確立を事業の方針としました。

来年7月には北部九州総体（大分・福岡・佐賀・長崎）も開催されます。九州ブロックの丸山会長さんはじめ福岡の本部役員さんの熱意で九州の組合は燃えています。

編集後記

平成25年も明けました。昨年は لندنオリンピックにて日本選手の大活躍があり大いにスポーツ熱も上ったのではないのでしょうか。その割には我々の売り上げや利益は上がりませんが…。

昨年の年末に近畿ブロック協議会とJSERAとの主催による「甲子園親善軟式少年野球大会」が実施されたことを知っておられますか？これはあの東日本大震災で被災されて、一時は野球どころではない環境であった子達に高校生になったら「甲子園に出場するぞ」と云う強い気持ちを持ち続けてもらいたいとの近畿ブロックの皆さんの協力により実施された大会でした。多方面の皆様の資力協力や、又甲子園所在地である西宮市の協力も得て大成功の内に終わったとのことでありませぬ。特に滋賀県のモリヤマスポーツ様の資金援助や兵庫県のポッポスポーツの尾川様の献身的な働き無くしては何も出来なかったとのことでありませぬ。兵庫の理事長より特に連絡がありましたので、皆様に御披露申し上げます。近畿ブロックの皆様御苦労様でした。

近畿ブロックバンザイ。JSERAバンザイ。

(H.K)